

令和2年11月21日  
14時00分～16時00分  
神奈川県民センター

## 第5回考古学講座

### 神奈川県における縄文時代 後・晩期の集落

神奈川県教育委員会  
児玉 優

---

#### ○縄文時代の時期区分

- ・縄文時代の各期（草創期・早期・前期・中期・後期・晩期）
- ・放射性炭素年代測定法による各期の実年代

#### ○縄文時代 後・晩期の環境

- ・縄文時代の環境変化：縄文時代には7回（後・晩期で2回）の汎地球的気候変動の発生し（鈴木2014, 2020）、後期には寒冷化する。
- ・海水準変動：早期からの海進は中期に最大となり、以後、後期から晩期にかけて、約1～2mの海退（松島1999）。
- ・火山活動の活発化：後期中葉～末に火山砕屑物（湯船第1スコリア・砂沢スコリア）が検出され（秦野市平沢同明遺跡・南足柄市五反田遺跡）、晩期では御殿場泥流が発生する（杉山2013, 2020）。
- ・植物利用の変化：谷戸や低地に設置された水場遺構（東京都下宅部遺跡、平塚市真田北金目遺跡群、伊勢原市西富岡・向畑遺跡など）では、クルミやトチノミの利用が顕著となる。（佐々木・能條2019）

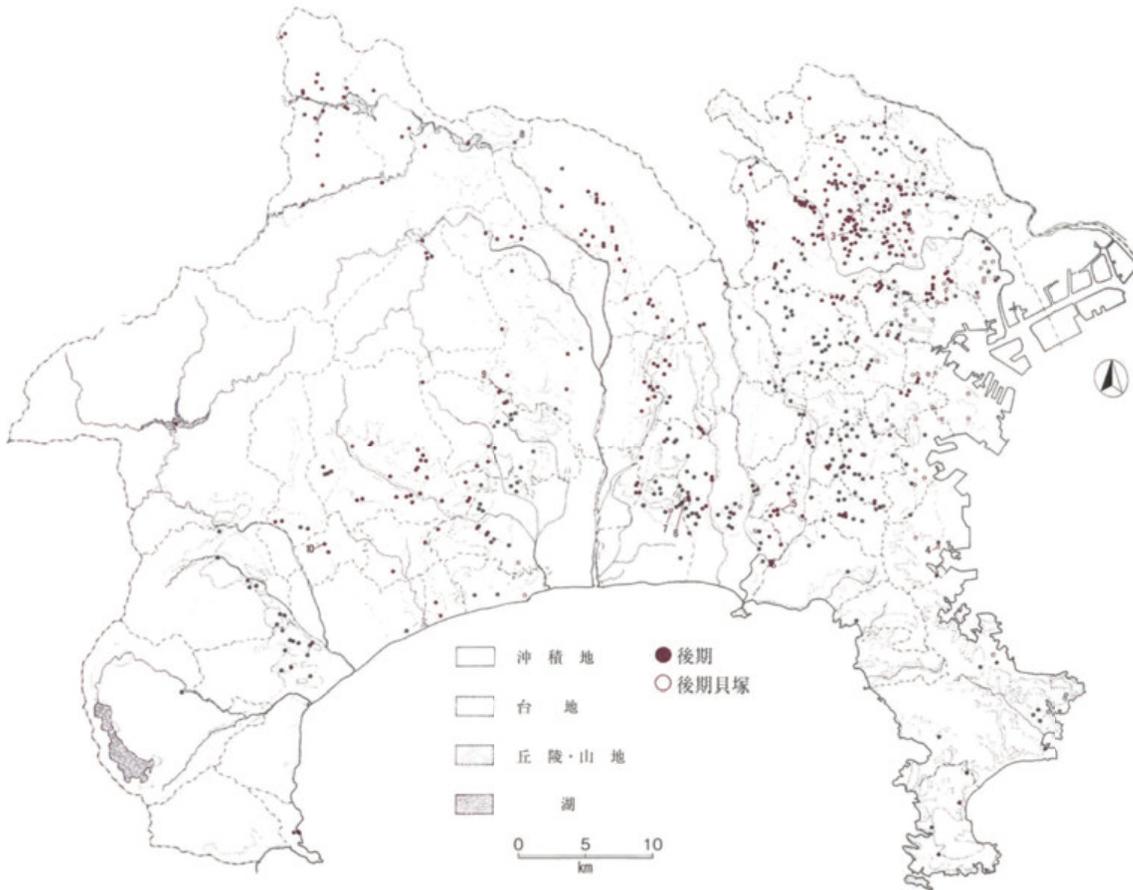
#### ○神奈川県における中期中葉～晩期にかけての集落の動向

- ・中期中葉～後葉：環状集落の規模が拡大し、ピークに達する。  
住居の奥壁に石柱・石壇が設置、小張出部をもつ住居址の出現。
- ・中期末～後期初頭：環状集落の縮小。集落の小規模化や居住域の分散。  
柄鏡形（敷石）住居址の出現
- ・後期前葉～中葉：遺跡・住居件数の増加。多重化する「核家屋」が台地基部に占拠。  
環礫方形配石遺構の出現。
- ・後期後葉～晩期：遺跡数の大幅な減少。中央窪地型集落の形成。

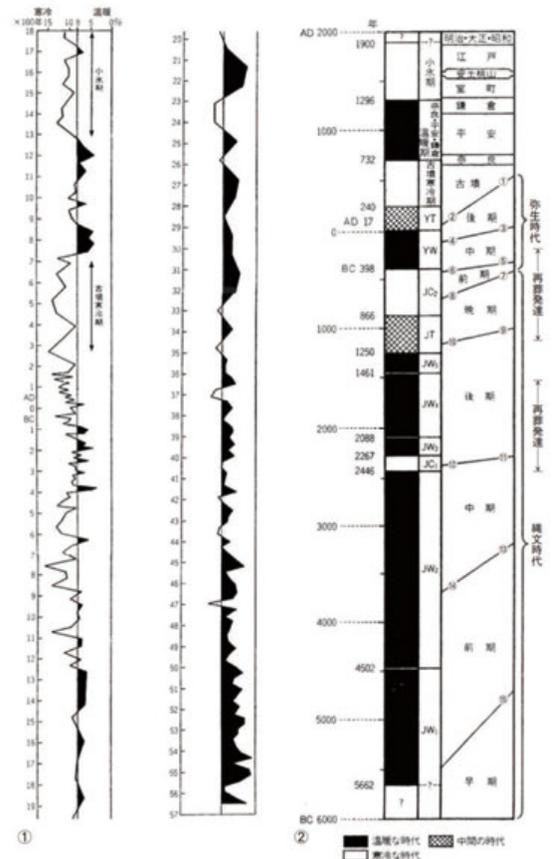
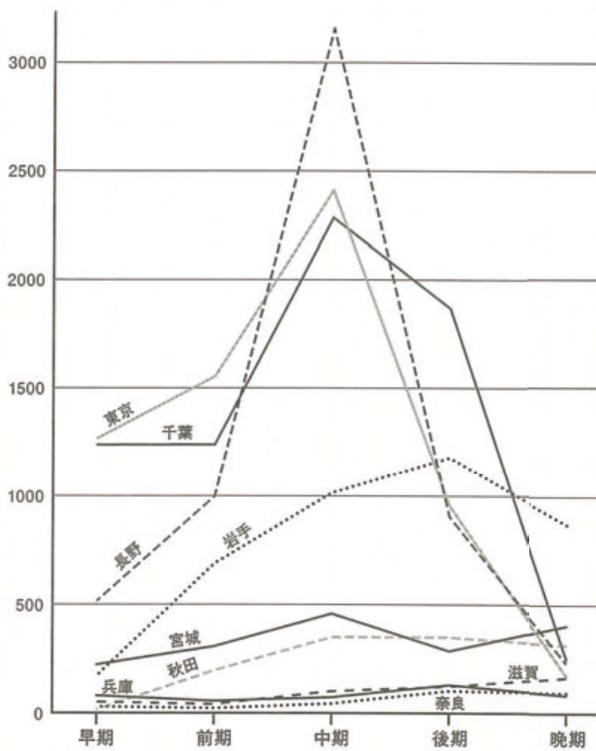
## 参考文献

- 秋田かな子 1999 「石のある風景」『縄文村の風景』神奈川県考古学会
- 天野賢一 2018 「秦野市 稲荷木遺跡の調査成果」『謎の敷石住居の現在-縄文時代中期から晩期の集落-』神奈川県考古学会
- 安斎正人 2014 『気候変動と縄文文化の形成』同成社
- 石井 寛 1982 「集落の継続と移動」『縄文文化の研究』8 雄山閣
- 石井 寛 2014 「縄文中期から後期への推移に関する一考察」『横浜市歴史博物館 紀要』
- 上原正人 2010 「平塚市真田・北金目遺跡群の水場遺構」『縄文時代の植物食と水場遺構』かながわ考古学財団編
- 梅津正倫 2012 「日本列島の復元」『環境の日本史』1 吉川弘文館
- 江原 英 2009 「環状盛土遺構」『縄文時代の考古学』8 同成社
- 遠藤邦彦 2017 『日本の沖積層』富山房
- 工藤雄一郎 2012 『旧石器・縄文時代の環境文化史』新泉社
- 河本雅人 2017 『国指定史跡 川尻石器時代遺跡総括報告書』相模原市教育委員会
- 小林謙一 2019 『縄文時代の実年代講座』同成社
- 佐々木由香 能城修一 2019 「植物資源利用から見た関東地方の縄文時代後・晩期の生業」『縄文文化の繁栄と衰退』雄山閣
- 佐々木由香 能城修一 2020 「縄文から弥生への植物資源利用の変遷」『農耕文化複合形成の考古学 下』雄山閣
- 設楽博己 2006 「弥生時代改定年代と気候変動：Sakaguchi1982 論文の再評価」『駒沢史学』67号 駒澤大学
- 杉山浩平・金子隆之 2013 「縄文時代後晩期の伊豆・箱根・富士山の火山活動と集落動態」『考古学研究』第60巻第2号 考古学研究会
- 杉山浩平・深澤麻衣 2020 「3. 神奈川県」『富士山噴火の考古学』吉川弘文館
- 鈴木三男 2016 『クリの木と縄文人』同成社
- 鈴木保彦 2009 「Ⅲ 関東・東海地方の縄文集落と縄文社会」『集落の変遷と地域性』雄山閣
- 鈴木保彦 2014 「晩氷期から後氷期における気候変動と縄文集落の隆盛」『縄文時代』25 縄文時代文化研究会
- 鈴木保彦 2020 「縄文時代の気候変動及び海流と縄文文化」『縄文時代』31 縄文時代文化研究会
- 菅谷通保 2009 「竪穴住居の形式（後・晩期）」『縄文時代の考古学』8 同成社
- 勅使河原 彰 2016 『縄文時代史』新泉社
- 樋泉岳二 2019 「貝塚形成と狩猟活動」『縄文文化の繁栄と衰退』雄山閣
- 浜田晋介 2000 『下原遺跡』川崎市市民ミュージアム
- 町田 洋 1964 「Tephrochronology による富士火山とその周辺地域の発達史」73巻6号 東京地学学会

松島義章 1999 「縄文の海岸線を復元する」『縄文村の風景』神奈川県考古学会  
中川真人 2018 「相模原市 川尻石器時代遺跡の発見から現在」『謎の敷石住居の現在-縄文時代中期から晩期の集落-』神奈川県考古学会  
中塚 武 2012 「気候変動と歴史学」『環境の日本史』 1 吉川弘文館  
野坂和広 2018 「伊勢原市 子易・中川原遺跡の調査成果」『謎の敷石住居の現在-縄文時代中期から晩期の集落-』神奈川県考古学会  
山本暉久 2002 『敷石住居址の研究』六一書房  
山本暉久 2010 『柄鏡形（敷石）住居と縄文社会』六一書房  
山本暉久 2012 「第3章縄文時代」『相模原市史』考古編 相模原市教育委員会  
山本暉久 長岡文紀 恩田 勇 松田光太郎 2001 「神奈川県における縄文時代集落の諸様相」『列島における縄文時代集落の諸様相』縄文時代文化研究会  
新山保和 2010 「伊勢原市西富岡・向畑遺跡」『縄文時代の植物食と水場遺構』かながわ考古学財団  
横山諒人 2018 「秦野市盆地における柄鏡形敷石住居」『謎の敷石住居の現在-縄文時代中期から晩期の集落-』神奈川県考古学会  
横浜市歴史博物館・(財)横浜市ふるさと歴史財団 2008 『縄文文化円熟-華蔵台遺跡と後・晩期社会-』  
財団法人かながわ考古学財団 1997 『青山開戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告 29  
財団法人かながわ考古学財団 2008 『下北原遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告 222  
昭和女子大学中屋敷遺跡発掘調査団 2008 『中屋敷遺跡発掘調査報告書』  
曾屋吹上遺跡発掘調査団 2002 『曾屋吹上遺跡-200102 地点-』  
財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜市教育委員会 1995 『川和向原遺跡 原出口遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 XIX  
財団法人横浜市ふるさと歴史財団 横浜市教育委員会 1999 『小丸遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 25  
財団法人横浜市ふるさと歴史財団 2008 『華蔵台遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 41  
神奈川県教育委員会 東正院遺跡調査団 1972 『東正院遺跡調査報告』  
神奈川県教育委員会 1977 『下北原遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告 14  
神奈川県教育委員会 1996 『謎の敷石住居』平成7年度かながわの遺跡展  
神奈川県教育委員会 2019 『縄文と弥生』令和元年度 かながわの遺跡展  
日本窯業史研究所 1992 『海老名市杉久保遺跡 1（勝坂期）』  
秦野市教育委員会 2013 『太岳院遺跡 尾尻尾崎遺跡 水神遺跡 今泉西堀遺跡』  
株式会社玉川文化財研究所 2014 『下北原遺跡Ⅲ』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告 27  
横浜市埋蔵文化財センター1990 『全遺跡調査概要』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告 X



神奈川県内の縄文時代後期の遺跡分布 (山本 2012)



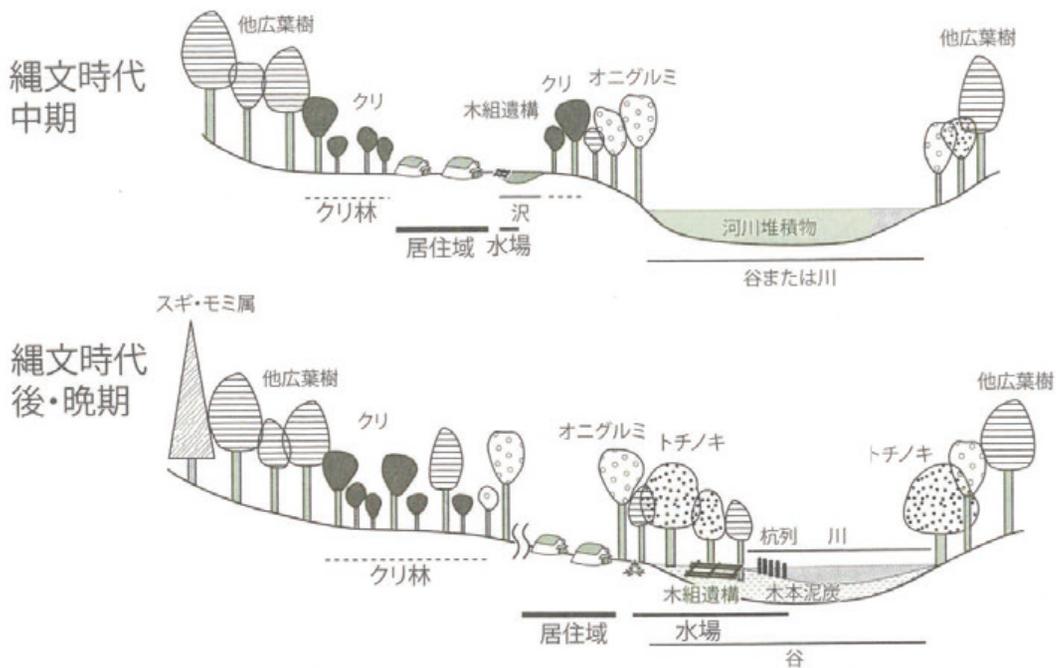
縄文時代の時期別・地域別の遺跡数 (勅使河原 2016)

気温曲線 (設楽 2006、坂口 1984)

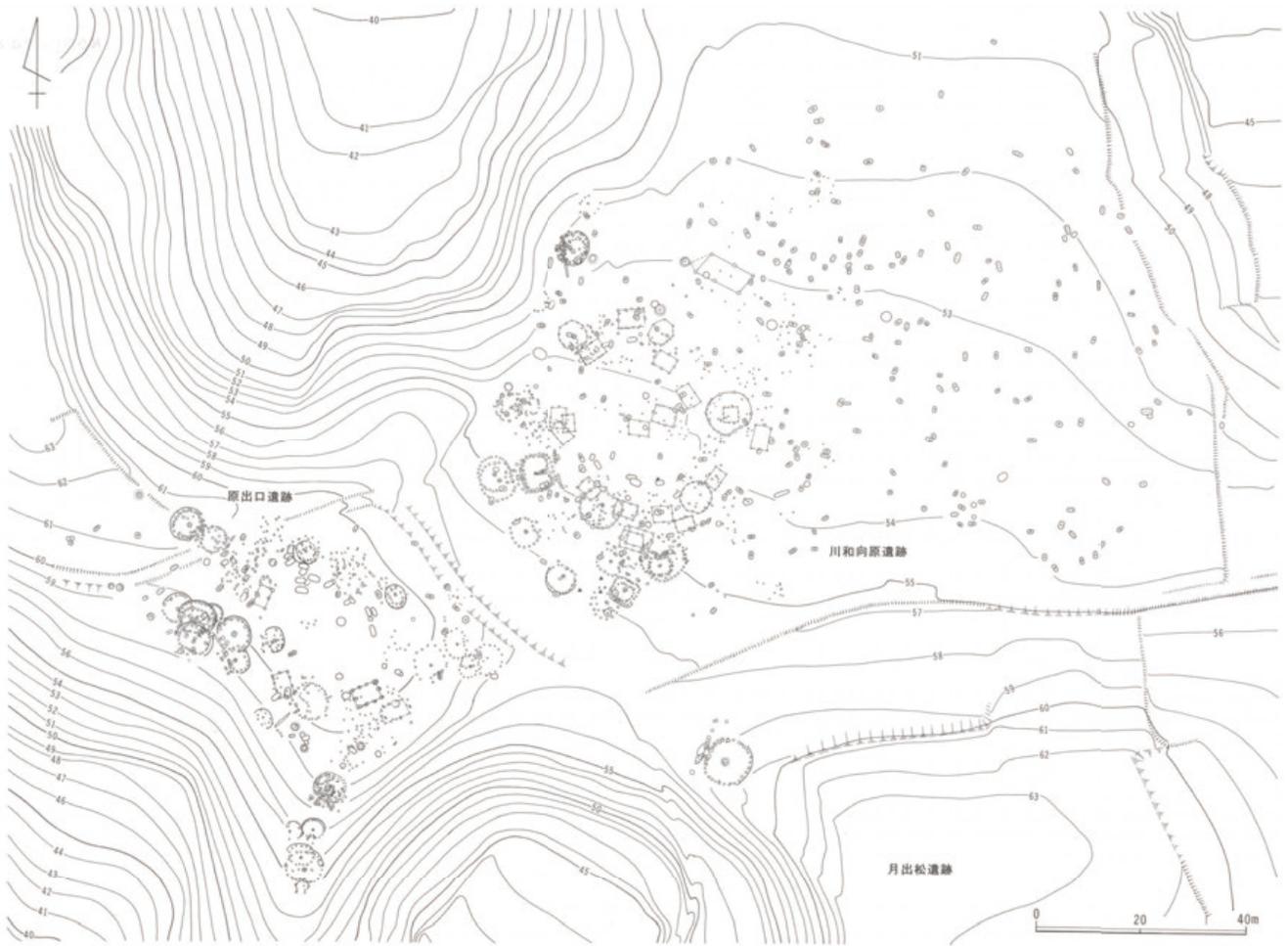
(cal BP)	ca.5000		ca.4000				ca.3000		
時期区分	縄文時代中期		縄文時代後期				縄文時代晩期		
	中葉	後葉	初頭	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉
オニグルミ	●	●			△				
ヒメグルミ									
クリ	△	△			△	●	●	●	●
クヌギ節					●				
コナラ	△								
ナラガシワ	△	△							
アカガシ亜属				○					
トチノキ	△	△		●	●	●			○
鱗茎類	○		○	○	○	○			○
マメ科	△ ダイス属 アスキ型	△ ダイス属 アスキ型							○ アスキ型
その他			○ ニフトコ		△ ヤマグワ		△ ニフトコ・ヤマグワ集中		
栽培植物	△ エゴマ ヒョウタン ウルシ				△ エゴマ	○ アサ	△ ヒョウタン		
遺構	第11号水場遺構 第1号クミ塚 第2号クミ塚		第8号水場遺構 第4号トチ塚		第2号トチ塚 第3号トチ塚 第5号トチ塚		第4号水場遺構 有機物集中S28 第5号水場遺構		

● 遺構レベルの利用痕跡 ○ 遺物レベルでの利用痕跡 △ 産状や組成から利用を推定

下宅部遺跡における大型植物遺体 (佐々木, 能城 2020)



縄文時代中期から後・晩期における  
低地の環境の変遷と以降の位置 (佐々木, 能城 2020)



横浜市川和向原遺跡・原出口遺跡 (財ふるさと歴史財団1995)



横浜市小丸遺跡 (財ふるさと歴史財団1999)

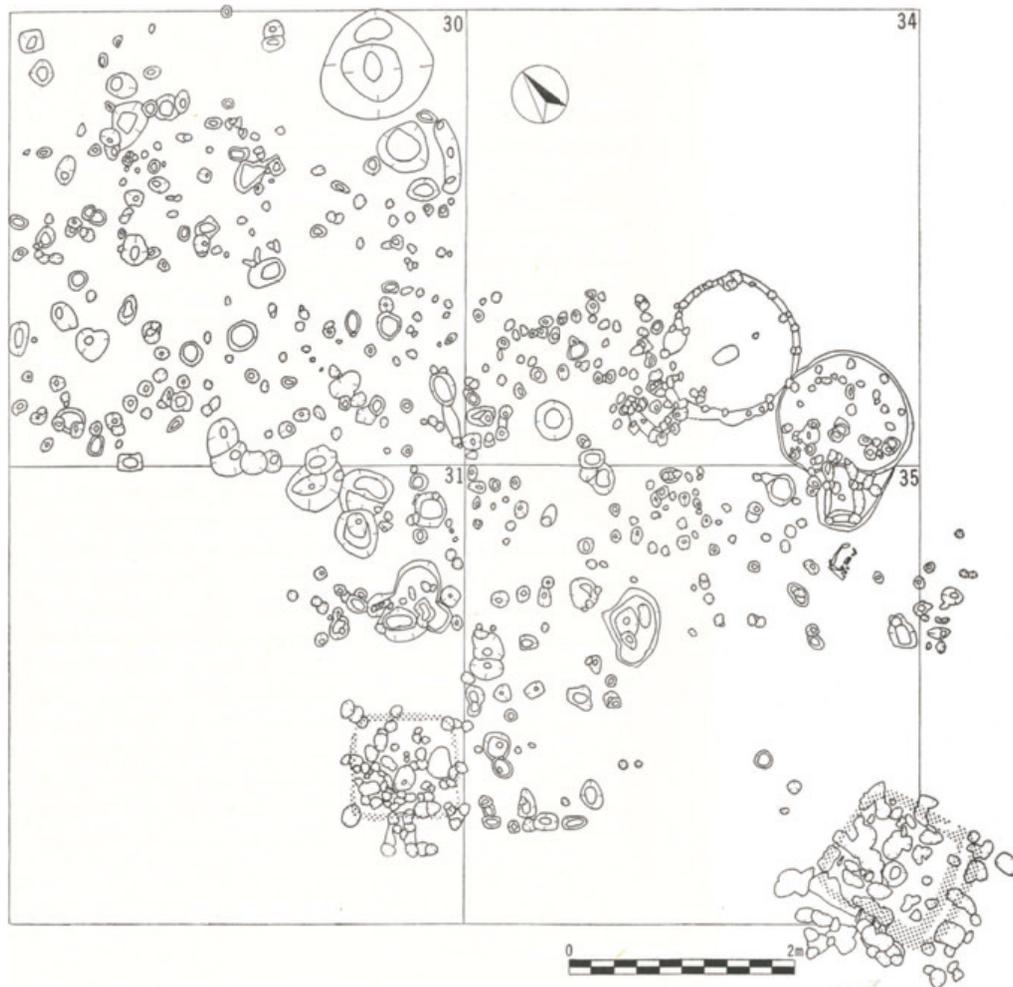


横浜市華蔵台遺跡 (財ふるさと歴史財団2008)

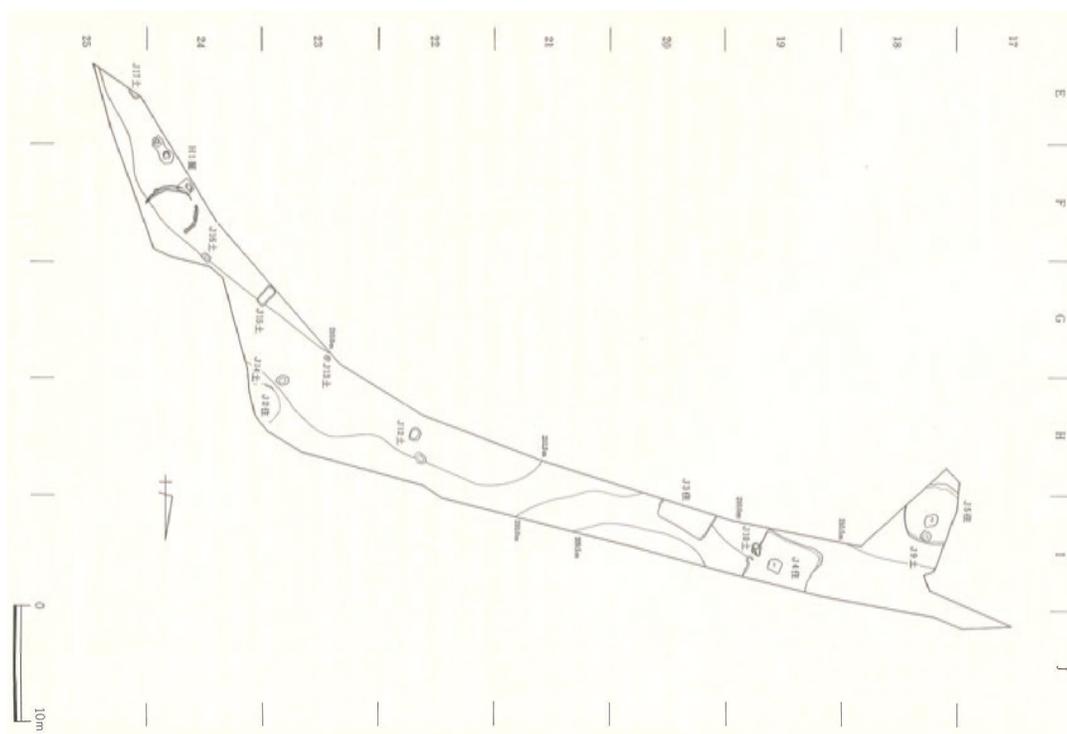


付図1 杉久保遺跡全体図  
(地区別旧跡)

海老名市杉久保遺跡(日本窯業史研究所1992)



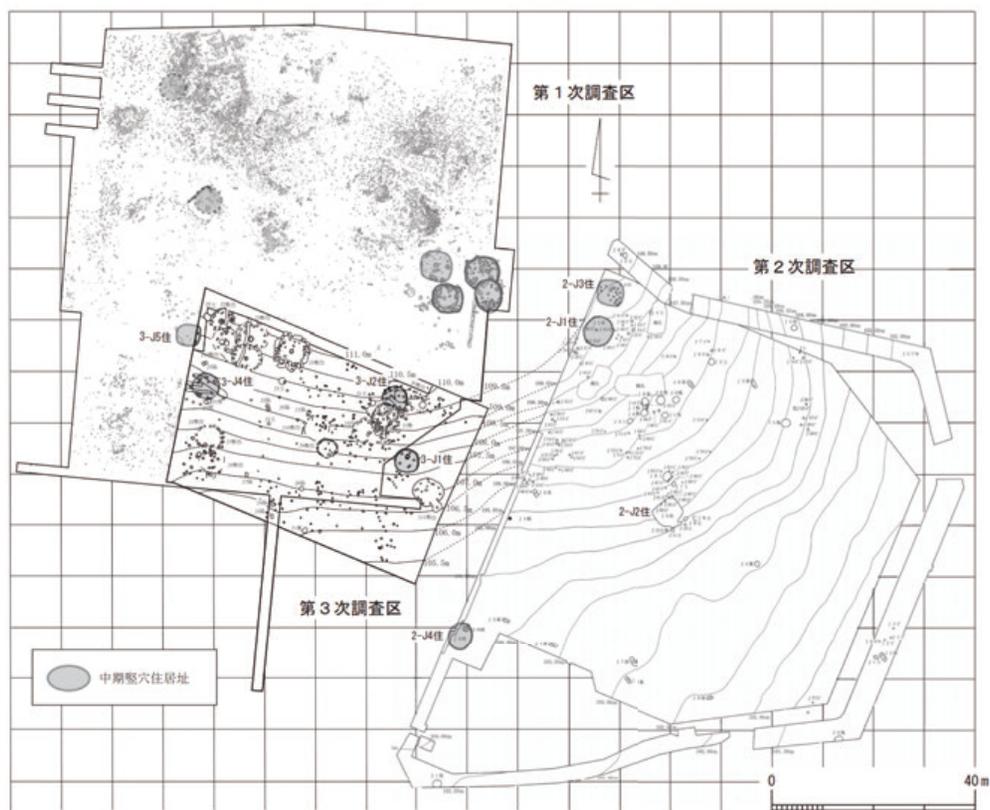
鎌倉市東正院遺跡(東正院遺跡調査団1972)



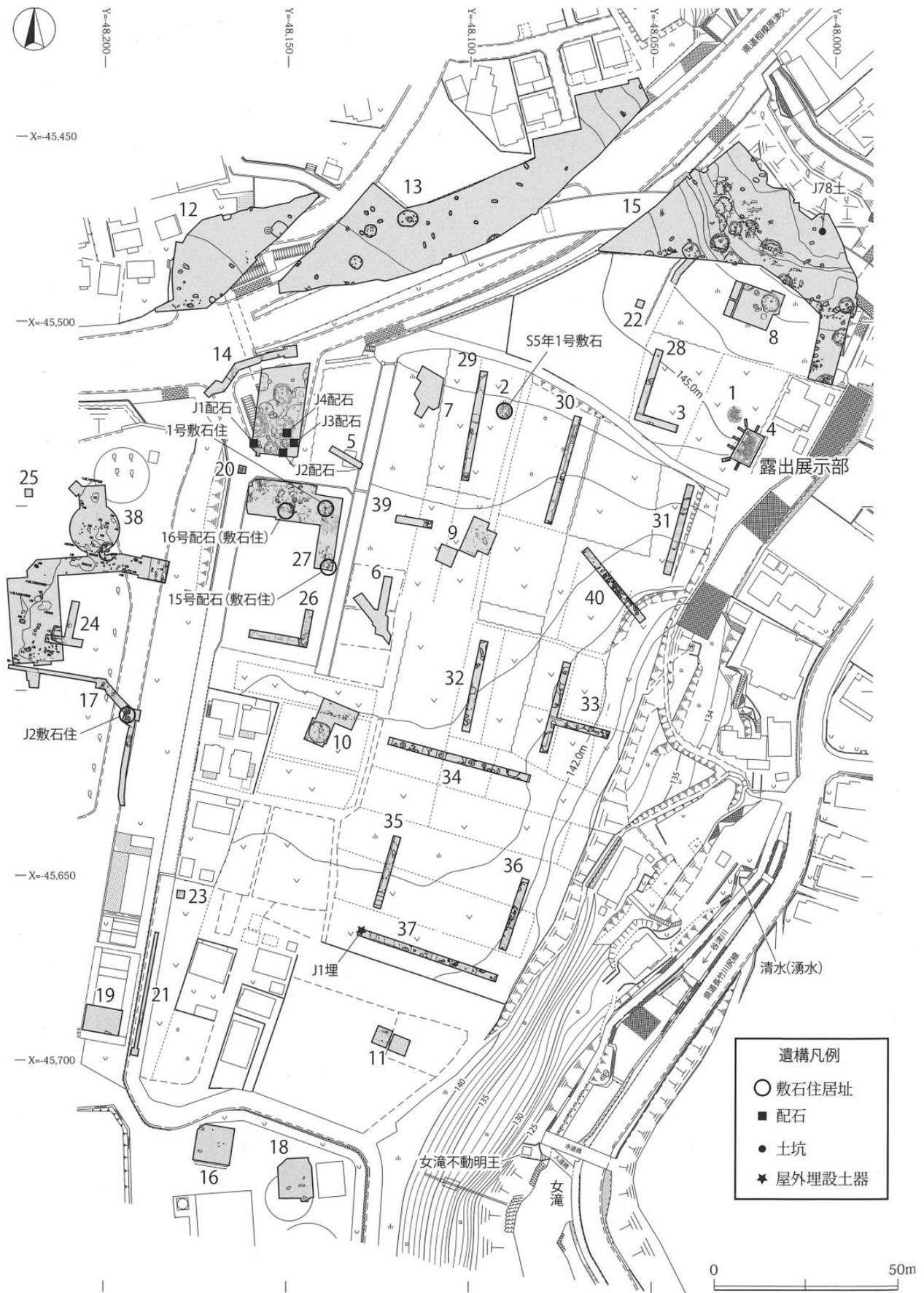
青山開戸遺跡(財かながわ考古学財団1997)



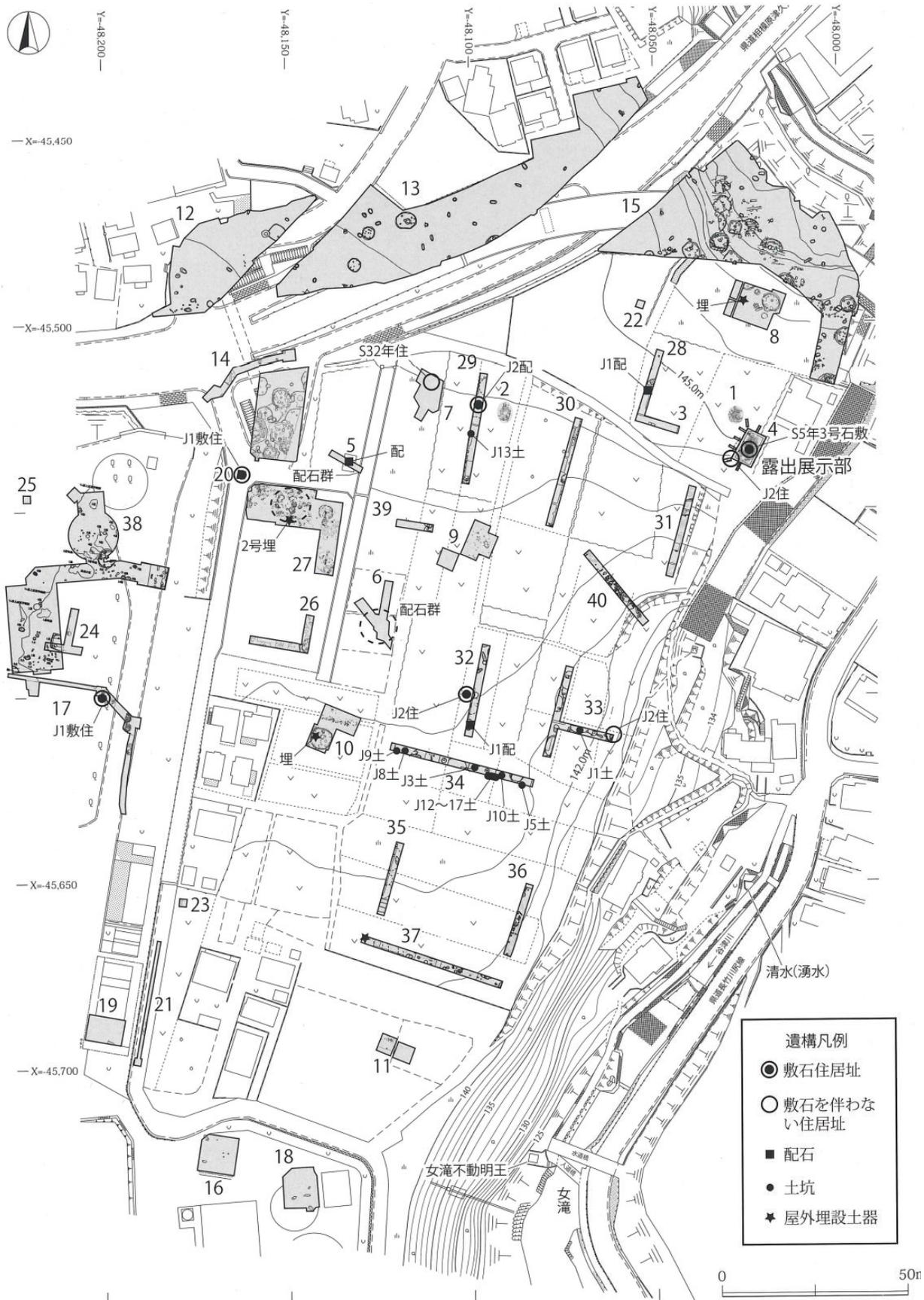
川崎市下原遺跡(浜田2000)



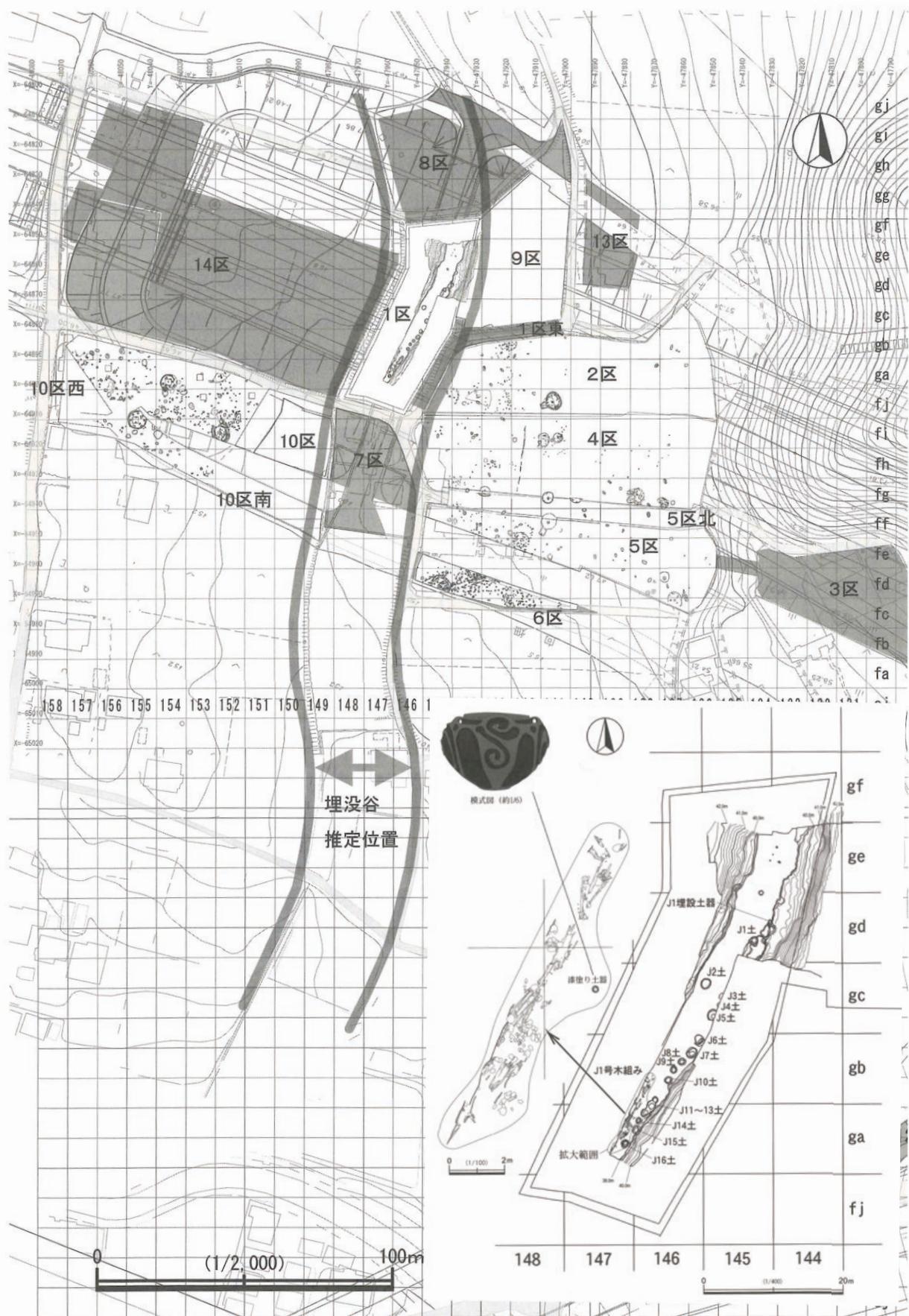
伊勢原市下北原遺跡(玉川文化財研究所2014)



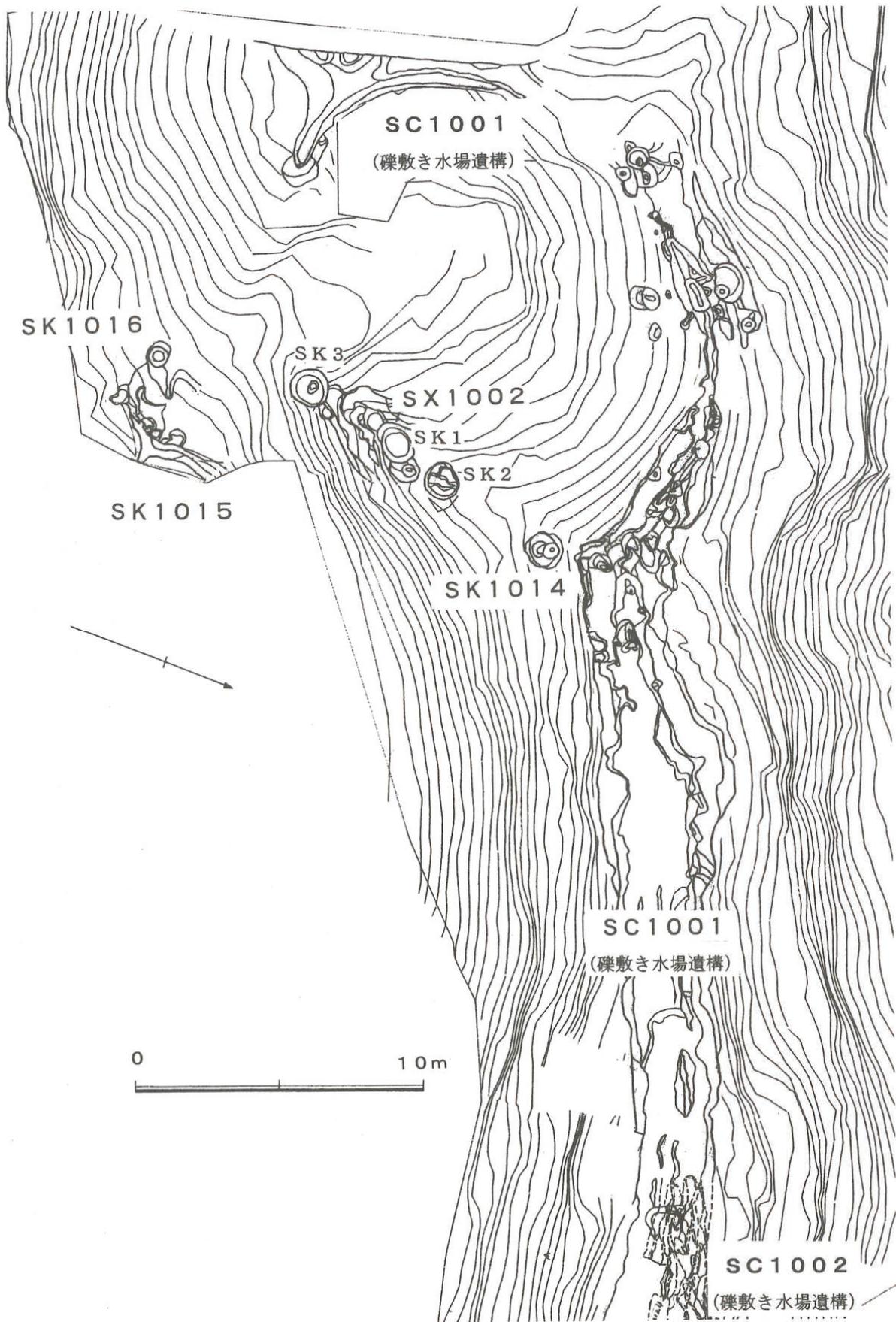
相模原市川尻石器時代遺跡  
縄文時代中期末葉～後期初頭遺構配置図(河本2017・中川2018)



相模原市川尻石器時代遺跡  
縄文時代後期遺構配置図(河本2017・中川2018)



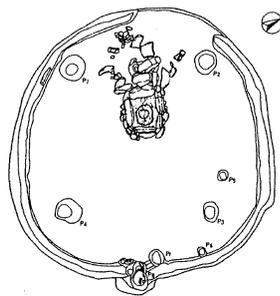
伊勢原市西富岡・向畑遺跡(新山2010)



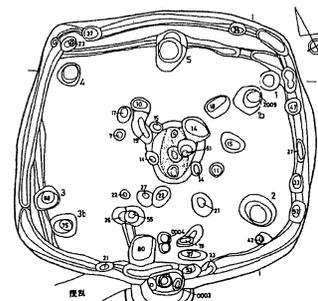
平塚市真田・北金目遺跡群 入谷戸遺跡(上原2010)

# 敷石住居の変遷

初源期

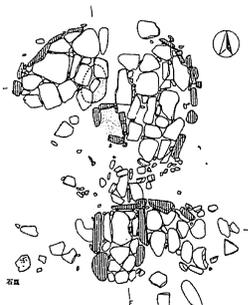


大地開戸遺跡：J 7号住居

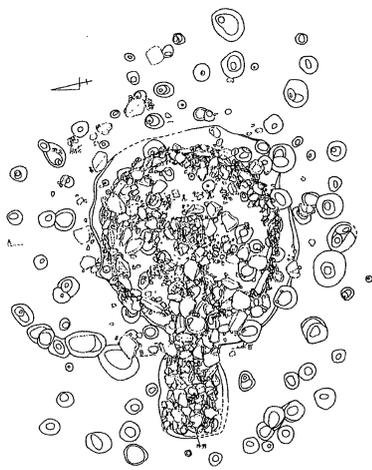


稲ヶ原遺跡A地点：B-17号住居址

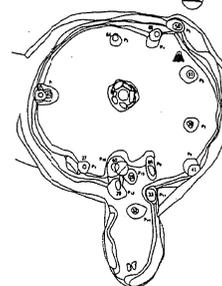
成立期



尾崎遺跡：第11号住居址

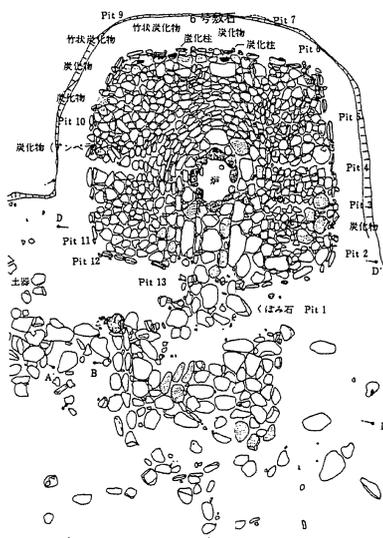


新戸遺跡：J 4号住居址

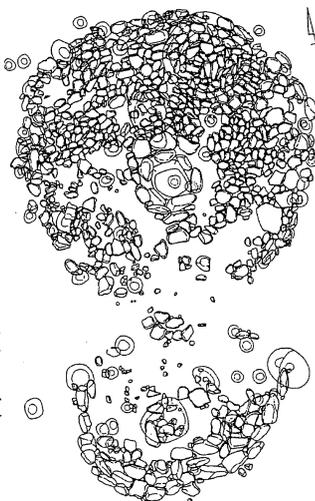


洋光台猿田遺跡：第10号住居址

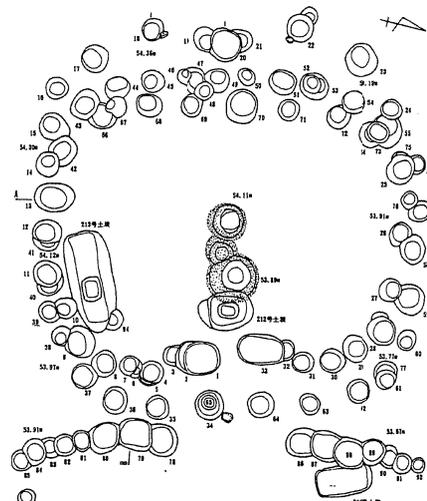
発展期



曾屋吹上遺跡：第6号住居址

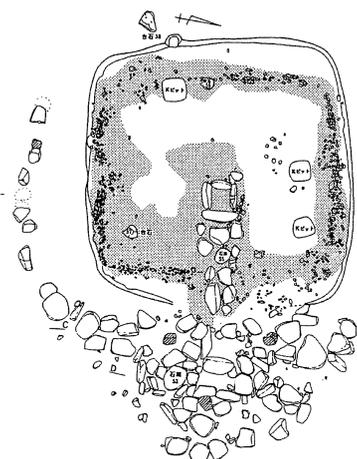


下溝鳩川遺跡：B-1号住居址

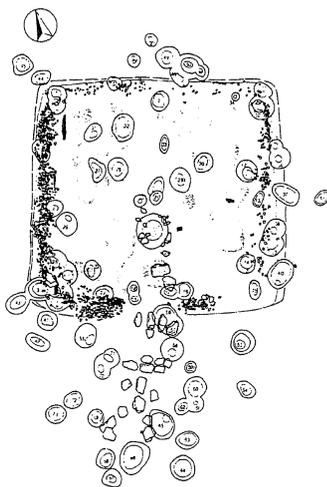


川和向原遺跡：第7号住居址

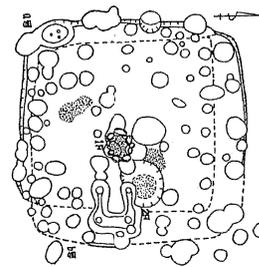
終末期



宮ヶ瀬遺跡群馬場遺跡：第4号住居址



王子ノ台遺跡：第20号配石



華蔵台遺跡：J 3号住居址

## 用語説明

海水準変動：地質年代から現在にかけての海面（海水準）の変化。海水準が上昇すると「海進」、低下すると「海退」。

スコリア：噴火により火口から噴出された溶岩流を除く噴出物のうち、多孔質で暗色のものをスコリアと呼ぶ。

配石遺構：川原石などの自然石を配置したり、組み合わせたりしたもの。

環礫方形配石遺構：帯状の小礫群が方形に配置された配石遺構。遺構内からは、石棒や焼獣骨片などが出土する事例がある。

柄鏡形（敷石）住居：柄鏡の形に類似した張り出し部をもつ住居址で、縄文時代中期後半から見られるようになる。床面に川原石を敷きつめたものと、石のないものがある。

石柱・石壇：住居内に柱状に石が立てられているものは石柱、祭壇状に石が敷かれているものは石壇。

環状集落：台地の縁辺部に中央の広場を環状に囲むように、竪穴住居址が配置される縄文時代の典型的な集落形態。広場部分には墓域が形成される。

重複：2基以上の遺構が重なり合って検出される状況。竪穴住居址が同心円状に重複する場合は、住居の拡張が想定される。一方で、複数の住居址が一部分のみ重複する場合、1軒目の住居址が廃絶した後に2軒目の住居址が構築されるため、それぞれの構築時期に時間差がある。

埋甕：住居内外に縄文時代の土器を埋設したもの。

環状盛土遺構：中央部の土を掘削し、掘り上げた土をその周囲に環状に盛土してドーナツ状の景観を示す遺構。栃木県寺野東遺跡では、直径約160m、高さ2mの規模の盛土が構成される。盛土の中からは、獣骨や土器が多量出土する。

中央窪地型集落：縄文時代晩期にみられる集落形態。集落の一部が窪地化する。

水場遺構：谷戸や低地に構築され、木杭や丸太を用いて堰を構築し堅果類の水さらし等を行う施設。